

一般財団法人 PBEE 研究・研修センター：設立の趣旨

(実践家・当事者参画型エンパワメント評価 研究・研修センター)

(Practitioner & peer Based Empowerment Evaluation Research & training Center/PBEE-RC)

■PBEE研究・研修センター設立の趣旨

- 近年、世界的なレベルで社会政策の様々な領域で**エビデンスに基づく政策立案**(EBPM; Evidence-Based Policy Making)を重視する動きが急速に進展しており、同時に社会課題解決のために成果を生み出す社会プログラム(変革プログラム)の形成・発展を科学的に進めるために**有効な形成的評価の方法論**が模索されています。
- このような中、日本の対人サービスの領域では、既存サービスでは対応困難な様々な社会課題が拡大し、いわゆる「制度の狭間」等の問題として、喫緊に対応が必要な重要課題と認識されています。
- これに対して、実践現場から課題解決に有効な変革プログラムを設計・開発して、より良い課題解決の成果を生み出す「**実践家や当事者の役割**」に期待が集まっています。それに伴って、その変革プログラムを科学的根拠に基づく有効な「**効果モデル**」に形成・発展させて、社会に実装させる**実践家・当事者の力量や資質の形成(評価キャパシティ形成: ECB)**、そして**実践家における評価人材養成**が重要な課題になっています。
- これら課題に対して私たちは、「**実践家参画型エンパワメント評価(PBEE)**」の方法論の開発に取り組み、いくつかの変革プログラムに適用して、その有効性を確認して来ました。PBEEは、社会課題解決に有効な変革プログラムを、科学的根拠に基づく効果的プログラム(「**EBP効果モデル**」)に形成・発展させるための**形成的評価アプローチ法**であり、かつ**実践家・当事者や支援組織のECBにも寄与する方法**として世界的にも独自性のある評価方法論と考えています。
- 私たちは、社会プログラム実施・運営の日常実践に関わる実践家、及びサービス利用者(当事者)の創意工夫や実践上の経験知・アイデアを活かして、同時に当事者が希望する支援ゴール・リカバリーゴールを、当事者が望む方法・方式で実現する**形成的評価の方法論(PBEE)**を**全国の対人サービスの実践現場に実装することが重要**と考えています。それは実践現場を当事者の課題解決を中心に据えた「**学習する組織**」へと**変革**し、それにより**支援組織のサービスの質全体が向上**して、当事者が望む支援ゴールの達成に大きく寄与すると考えるからです。
- 私たちは、PBEEアプローチ法をさまざまな変革プログラムに適用・適合させ、より有効性の高い「**EBP効果モデル**」に発展させるためのプログラム評価実践や評価実践研究に、実践家・当事者の皆さんとご一緒に協働して取り組みたいと願っています。
- より効果的な「**EBP効果モデル**」の**共同創造(co-production)**は私たちの使命です。このような取り組みが、今後より優れたものになるように、私たちは日ごろから**PBEEアプローチ法の継続的改善・アップグレードに務める**と共に、この評価アプローチ法に関心をもつ多くの関係者の皆さまとご一緒にPBEEに関わる**研究交流と情報・意見交換、研修活動と評価人材育成、広報・普及活動**を行い、この評価アプローチ法の担い手を育成して**社会実装を進める**と共に、関係者との**ネットワークを広げて行きたい**と考えます。

○そのために、私たちは一般財団法人 PBEE 研究・研修センターを設立します。私たちの理念や使命、活動の意義にご賛同頂く関係者の皆さんにご参画いただき、**PBEEアプローチ法の実践現場への社会実装に向けて**、皆さまとご一緒に協働して行きたいと願っています。

2022年2月27日

■設立呼びかけ人:

大島巖（東北福祉大学副学長・教授：呼びかけ人代表）

源由理子（明治大学教授）

山野則子（大阪府立大学教授）

贄川信幸（日本社会事業大学准教授）

新藤健太（群馬医療福祉大学講師）

平岡公一（東京通信大学教授）

有村大士（日本社会事業大学准教授）

今田克司（株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役）

清水潤子（武蔵野大学助教）

池本修悟(ユニバーサル志縁センター専務理事)

津富宏（静岡県立大学教授）

落合亮太（横浜市立大学准教授）

大山早紀子（川崎医療福祉大学講師）